

支援者向けオンラインイベント

里親子を社会で支えるための
トーク&ミーティング

～社会的養護への地域住民の参画を考える～

Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

アーカイブ動画はこちら



各地でのフォスタリング機関の設置や、2024年度からの「里親支援センター」の創設など、里親を「増やす」と同時に「支える」ために、制度の拡充が図られています。専門職による支援や里親どうしのピアサポートについても、それぞれの現場で取り組みが重ねられているところですが、本イベントでは「地域住民（非専門職）」が実際の支援者として里親家庭を支える取組みについて、里親当事者の体験談とともに情報交換を行いました。このチラシは、その開催レポートとしてお届けするものです。アーカイブ動画も YouTube にて公開していますので、ぜひご覧ください！

主催：特定非営利活動法人バディチーム

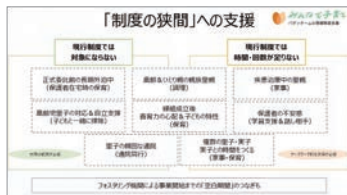
NPO 法人バディチーム
岡田妙子（代表） 村岡輝彦（事務局）

資格や経験がなくてもできることはある

東京都では 2012 年にいわゆる杉並事件が起き、里親さんたち自身も訴えを起こしたことを機に複数の里親支援事業が一気に開始され、そのタイミングでバディチームに訪問型支援の依頼が入り、委託事業となりました。

活動を担っている現場支援者は、性別・年齢・経験・資格の有無を問わず募集しています。事務局コーディネーターが伴走しながら、「みんなで子育て」をビジョンに支援を進めています。

2年前から「制度の狭間」に対する支援も始めた中で、最も多かったのが、正式委託前の長期外泊期間中のご家庭です。他の社会資源が使えず、共働きのご夫婦ではどちらかが 1 ヶ月ほど休職するような例もある状況となっていて、里親になるためにはこれだけの「苦行」を乗り越えなければならないという、負のメッセージを伝えてしまう恐れがあります。一方で、この最初の 1 ヶ月は、その後が順調に行きかどうかのすごく大事な時期ということも言われており、子どもたちが安心できるよう保護者在宅時での保育を基本としています。



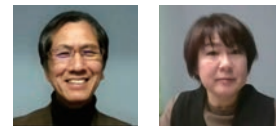
東京都 育児家事援助者派遣（里親支援機関事業の一部）

対象は、原則小学生までの委託児童がいる里親家庭です。数年前から、養子縁組成立後も児童福祉司の指導を行っている期間は対象となりました。里親家庭とは、各家庭を担当している里親支援専門相談員を通じて連絡調整をしています。育児援助の例としては、保護者不在時に自宅や周辺の公園、施設で預かりします。保育園・幼稚園・学童クラブ、さらに習い事の送り迎えも可能です。近年、共働きの家庭が増えていきますので、仕事の都合や在宅勤務時の利用も増えてきています。また、実子のいる家庭では実子との時間を作りたい、保護者自身の時間やご夫婦だけの時間を設けたいなど、リフレッシュ利用も推奨しています。

家事援助については、保護者の入院や怪我等の利用です。ほか、保護者から中学生の居室の片付けを手伝ってほしいという相談があり、本人の気持ちを聞いた上で、一緒に居室の片付けをする家事援助として、スタートをしたケースもあります。

育児家事援助者派遣
（東京都里親支援機関事業）

- ▶ 目的：里親等の負担を軽減するために、家事や養育援助など生活援助等を実施すること
- ▶ 対象：委託中の養育家庭（ファミリーホーム除く）、専門養育家庭、親族里親、養子縁組里親及び縁組成立後の児童福祉司指導を行っている養子縁組里親
- ▶ 利用基準：1 家庭あたり 2 4 時間（1 回あたり 2 時間、延長時間は 1 時間単位）

認定 NPO 法人優里の会
八谷斉（副理事長）
中村恭子（くまもと里親 Fika ちょこっと事務局）

優里の会のあゆみ

優里の会は 2013 年、里親支援をもっと増やしたいということを目的に設立しました。2015 年に熊本県・熊本市から里親制度普及・委託推進事業を、2018 年に熊本県から里親研修事業を、2020 年には八代児童相談所管轄のフォスタリング事業を受託しました。この間、日本財団より助成を受けて 2018 年から新規里親開拓事業、そして 2023 年に「くまもと里親 Fika ちょこっと事業」を開始しています。

2024 年 4 月より、里親支援センターを運営しており、里親制度等普及促進・リクルートから、研修・トレーニング、委託推進、養育支援、自立支援まで包括的な里親養育支援を行っています。

2023年4月より日本財団の助成を受けて
「くまもと里親Fikaちょこっと事業」を開始

みんなの「ちょこっと」がしあわせをつくる

「くまもと里親 Fika ちょこっと」は、私たち里親の思いから始まりました。

2022 年・2023 年に行ったニーズ調査において、養育里親では、レスパイトケアに関して利用に戸惑いを感じていること、またどれほど年齢の高い実子であっても、実子とだけの時間が必要であること、などが聞かれました。養子縁組里親では、小さいお子さんのいるご家庭ではすべて一時的な預かりを必要としていること、また熊本では福田病院や慈恵病院などの民間から委託を受ける特別養子縁組の方も多くいらっしゃるの、縁組成立後もサポートが必要だと感じています。

こうした調査結果から一時預かり制度を構築し、Fika サポーター（イベントサポーター／ちょこっとサポーター）として登録いただいた方々に、イベント時の託児や、一時預かりを担っていただいています。里親が当たり前の社会になるために、助けてくださる方も助けてもらう方も、みんなの「ちょこっと」がしあわせをつくる、と思っています。

養育里親への聞き取り結果

- ①レスパイトケアは利用しにくい
 - ・養子と実子が一緒にレスパイトケアを利用できない
 - ・レスパイトケアに対する専門知識（施設、フォスタリング機関、養育）の認識の違いから、登録制レスパイトケアを受けることに抵抗を感じている
 - ・急な発生、短時間の発生、突発的な発生などで預かりが必要で、レスパイトケアは利用しにくい
- ②縁組に預けることへの戸惑い
 - ・養子と里親の縁組や年齢の高い実子に預けようとするのが、無断であり不安、そもそもそれが可能なかわからない
- ③預け時間の短さは、レスパイトケアではなく、里親や養育制度を確立、かつ自分がよく知っている人にお預けしたい
- ④養子と実子の関係について
 - ・どんなに養育の深い実子であっても、実子だけの時間が必要、そのようなときにもっと養育者預かってくれる仕組みがほしい

東京都里親
アキコ（仮名）

子なし+共働き夫婦が里親になったら

里子の養育をして2年4ヶ月ほどになります。子育て経験がなく、フルタイムの共働きで、大家さんの2階に借家住まいです。紹介された当時、里子は1歳半で、笑顔の可愛い女の子でした。私と里子の年齢差はちょうど50です。

東京都では概ね4週間の長期宿泊を経て措置決定となります。この間、保育園や公的な一時預かりなどは基本的に使えません。約1ヶ月、2名のうちどちらかが休みを取るなどをして、必ず子どもを見なければなりません。週1回2時間ほど、外せない打ち合わせの時間にパディチームに来ていただいて、里子を見てもらいました。3回ほどだったと思いますけれども、大変助かりました。

措置決定すると、子育て経験のない私たちにとっては保育園の先生はとても心強い味方でした。具体的な対応や言葉がけ、成長過程に合わせた遊びを教えてくださいました。その他、図書館や、近所の方、習い事で通っている地元の阿波踊りの連でも面倒を見ていただき、商店街でも声をかけていただけるようになりました。

里親ならではの課題も確かにあります。実務的なところでは、支援や補助の利用申請のサポートがあると嬉しいということ。それから中途養育の問題です。子育て経験のない里親にとっては、何が困りごとなのかよくわからず、子育てはこういうものなのかもしれないと考えてしまいます。試し行動なども、目の前の里子の行動にラベルがついているわけではなく、結果的にうまく対応できたのかわからないまま、課題感は他に移ってしまっていました。

長期宿泊時に受けた支援	
パディチームの訪問支援 <ul style="list-style-type: none"> ・リモートワーク中の家庭内で保育 ・週1回2時間53分、オンラインミーティングの間 ・事前打ち合わせが頻やかで、慣れたパートナーさんがきてくださり安心できました ・東京都福祉支援センターの一時預かりでその後もが経過している 	子ども家庭センター <ul style="list-style-type: none"> ・措置決定後、保育園が出来る前に利用 ・預かり中の様子を見学して頂くことができた ・療育して下さった方から声をかけていただいた ・平日日中で受けられる時間帯が満席でいたが、夜間は空きがあったりしてその日に活用できていた

共働きはとにかく時間がありません。里親同士の預け合いも良いと思うのですが、預かる側になれないため気兼ねしてしまいます。少なくとも子どもの小さい今は余裕がないですし、余分な部屋もありません。里親サロンは1度出しましたが、その後はなんとなく億劫で行っていません。最近になって改めて、同じように生みの親と離れて暮らす子どもどうしの交流になるという側面に目が行きまして、行っ

た方がいいのかなと思い始めているところですよ。

里子を迎えて私たちが気づいたことは、周りの人、知っている人もそうでない人も含め、人の温かさでした。ただ、これに気づくにも心のゆとりが必要です。課題の解決だけではなくて、ゆとりにつながる支援は全部嬉しいし、ありがたいです。

子育てで困ることはもちろん里親も困っていますので、まずは子育て支援をガンガン進めていただけて嬉しいと思います。里親も実親も子どもと一緒に手探りで1日1日、関係を築いていることに変わりはありません。子どもの思いに真摯に応えながら、解決を焦らず、課題を宙吊りにしながらも、あきらめずにいられるように、お力を貸していただけると、とても嬉しいです。

利用した、していない...

職場よりも時間

- ・養育中の子どもはもっと活用できていないと感じている（里親側）
- ・働きながらの生活は「時間」が足りないと感じている（里親側）
- ・家事サポートが利用できるような働き方ではない

ピアサポート

- ・預かる側にはないから、関係性で支える利用はなかなか見えない
- ・少ないと子育ての負担が大きいまま子育てに参画できない、余分な負担もない
- ・「お母さんは専業主婦」というのがいまだにある

里親サロン

- ・フォーマルなものは参加者が月々少く、非フォーマルなものは参加者が月々多くなる傾向がある
- ・子ども同士の交流になる、という動機に改めて参加者が参加している
- ・オンライン里親会は、実が目的のほかに、子育ての悩みを共有している、他の里親と情報交換できるのがある

- ・里親のホームランニングのようなイベントは、参加者が少ない。里親会に参加して、定期的に集まってもらえるようにしたい
- ・希望者の里親と親しくなったり里親の子ども同士の交流につなげられ

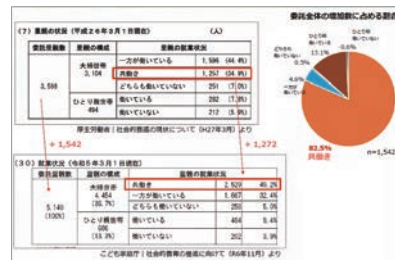
NPO 法人パディチーム
濱田壮摩（理事）

共働き里親の増加

アキコさんの発表に関連して今日、一番強調したいのはこのデータです（下図）。上の表が平成27年の資料で、下が令和6年の最新のもの。委託されている里親数と、里親の就業状況について示しています。

共働きが約5割になっています。そして単純に5割というだけではなく、増加数に占める割合を見てみると、この間に増えた1500ほどの里親のうち、実に8割以上が共働きだということが読み取れると思います。

平成28年に「新しい社会的養育ビジョン」が示されて、里親を増やしましょう、という流れになった結果として増えた里親さんは、8割以上が共働きだったということです。施策を考える上でも重要なポイントなのではないかと思います。



クロストーク＆質疑応答



Q：里親自身からするとレスパイトケアは利用しにくい？



A：「子どもが不安になるからよほどのことがない限り、これは使わないでください」と（支援機関の担当者）に言われた方もいらっしゃるし、里親は自分になると言ったのだからと、我慢する方もいらっしゃいます。



Q：所管の地域では「ファミリー・サポート・センター」は一般家庭と同様に利用できますか？



A：利用することはできますが、協会の会員が足りません。今「ちょっと」の利用は養子縁組里親に限られているのですが、ファミサポと同様に養育里親も使えるよう、児童相談所や各関係機関との協議を進めていきたいと思っています。



Q：共働きの里親委託を進めるために、どんなサポートがあったらよいと思いますか？



A：やはり一時預かりが一番大きいですが、職場の理解などが進むといいということもあります。



A：私も一時預かりをしていただけたらありがたいと思った時期があります。私は共働きと言っても非常勤で、保育園に入れません。なので、自分が仕事の日はどうするか心配がすごくありました。



A：実際に私も担当したケースで、長期外泊中の一時預かりや、委託後すぐに保育園に入れないケースもありました。オンライン会議の間に2～3時間だけ外に連れ出してほしいというケースや、民間の保育園の一時預かりを利用できたけれども、終了時間に間に合わないで迎えに行ってしまうというケースがありました。

お問い合わせ



特定非営利活動法人
TEL: 03-6457-5312
MAIL: honbu@buddy-team.com

2007年設立。様々な事情や背景があり子育てが困難な状況にある家庭や里親家庭等に訪問し、保育・家事・送迎・学習などの支援を通じて親子に寄り添う。



このイベントは日本財団より助成を受け、2024年度「里親子に対する理解促進および訪問型支援の強化」事業の一環として開催されます。

